

INTERVIEW

モザンビーク・マラウイを跨る 「ナカラ鉄道・港湾事業」向け プロジェクト・ファイナンス

日本への原料炭安定供給を支援

資源ファイナンス部門 鉱物資源部第2ユニット

花形 峻 調査役 (当時)、鈴木 菜々 副調査役に聞く



花形 調査役



鈴木 副調査役

「ナカラ鉄道・港湾事業」 への融資概要

JBICは、2017年11月、三井物産株式会社とブラジルの資源会社Vale S.A.が共同出資するモザンビーク共和国法人2社およびマラウイ共和国法人2社と、総額10億3,000万米ドル (JBIC分) 限度のPFによる貸付契約を締結しました。

プロジェクトは、モザンビーク内陸のモアティーズ炭鉱のあるテテからマラウイを経てナカラ港に至る総距離912kmのナカラ鉄道を整備し、ナカラ港における石炭積出ターミナルを建設するものです。

本融資は、アフリカ開発銀行 (AfDB) 及び民間金融機関 (株式会社三井住友銀行、株式会社みずほ銀行、スタンダード・チャータード銀行、日本生命保険相互会社、株式会社三菱東京UFJ銀行、三井住友信託銀行株式会社等) との国際協調融資 (総額27億3,000万米ドル) です。民間金融機関の融資には、株式会社日本貿易保険 (NEXI)、南アフリカ貿易保険 (ECIC) による保険が付保されます。

日本企業による炭鉱及び 鉄道・港湾事業への出資参画

アフリカ東海岸に位置するモザンビークは、石炭や天然ガスなどの豊富な資源に恵まれた国です。2011年に生産を開始したモアティーズ炭鉱は、鉄鋼生産に適した世界有数の高品位原料炭の産出で注目されており、フル生産に向け拡張を進めています。内陸部の同炭鉱ではこれまで約600km南のベイヤ港から出荷していましたが、生産能力の拡張に対応するため、新たな輸送手段の確保が必要となりました。

「同炭鉱の権益をもつVale S.A.と、三井物産は、同じく両社が共同出資するモザンビークとマラウイの法人を通じて、モザンビーク西部の同炭鉱からマラウイを経てモザンビーク東端のナカラ港に至る総距離912km (既設線682km、新設線230km) のナカラ鉄道を整備・建設するとともに、ナカラ港に石炭積出ターミナルを建設することとなりました。ちなみに、鉄道レールには、重い石炭輸送車両の運行に適した日本製の強度の高いレールが採用されています」と、花形調査役はプロジェクトの概要を説明します。

日本への原料炭安定供給を支援

三井物産の本事業への参画に向け、プロジェクトの初期から融資スキームについて意見交換する等、側面支援をしてきましたが、同社の参画決定後の2015年1月に正式な融資検討依頼があり、本格検討が始まりました。

「日本は原料炭を全量海外から輸入しており、そのうちの約半分はオーストラリアを供給源としています。一部の資源メジャーによる寡占化や自然災害等の影響がある中で、本件は原料炭調達先の多角化という大きな意義があります。また、日本政府は第6回アフリカ開発会議 (TICAD VI) 等を通じて官民協力によるアフリカ地域への質の高い支援を目指しており、JBICも2013年に創設した『JBICアフリカ貿易投資促進ファシリティ (FAITH)』を強化する形で『FAITH2』を創設するなど、アフリカへの投資支援を重視しています。

本件は、モザンビークとマラウイの2か国を跨る事業であるため、両国の法制度を踏まえて融資関連契約書をつくり込むと共に、両国のポリティカルリスク評価を含めた審査プロセスに、前任者を含めて最大限の力を注ぎました」と鈴木副調査役。

「本件は2年かけてようやく大筋を固めることができました。私たちが仕上げを担当したわけですが、契約調印までには多くの課題が残されていました。関係者と度々ラウンドに集まって協議を重ね、条件の細部を詰めるために弁護

国際協力銀行 (JBIC) は、2017年11月、三井物産株式会社とブラジルの大手資源会社Vale S.A.が出資するモザンビーク共和国法人2社およびマラウイ共和国法人2社と、10億3,000万米ドル (JBIC分) 限度のプロジェクトファイナンス (PF) による貸付契約を結びました。本融資は、アフリカ開発銀行 (AfDB) をはじめ国内外の金融機関との国際協調融資 (総額27億3,000万米ドル) です。

本プロジェクトは、モザンビークのモアティーズ炭鉱からナカラ港に至るナカラ鉄道と石炭積出ターミナルなどのインフラを建設・運営するもので、日本への原料炭輸出の増加が期待されます。



士事務所に2週間缶詰になったこともありましたが、さらに、アフリカを含む各国の協調融資行と毎週のように電話会議を行いました。」と花形調査役。

こうして、予定通り11月27日に融資関連契約書の調印を行い、その後モザンビークにおいて鉱物資源省・運輸通信省・経済財務省から3大臣を迎えて、盛大に調印セレモニーが開催されました。

JBICとして過去最大額のアフリカ向け融資

「モザンビーク・マラウイ両政府との対話を通じて、融資検討時から、両国からの本プロジェクトに対する大きな期待を感じました。JBICとしても、本件は過去最大額のアフリカ向け融資であるということに加えて、AfDBとは7年振り、南アの輸出信用機関である南アフリカ貿易保険 (ECIC) とは初の協調融資案件であり、16年振りのサブサハラ・アフリカ向けのプロジェクト・ファイナンスという意味でも意義ある案件でした。

ナカラ鉄道の整備は、モザンビーク及びマラウイの経済成長に寄与するととどまらず、ザンビア、ジンバブエなどの周辺の内陸国にとっても、モザンビークというアフリカ大陸のゲートウェイに繋がる大動脈としての役割が期待されており、他のアフリカ諸国からの注目度も高いと感じています。

JBICでは、今後も日本企業が参画するアフリカの経済発展につながる事業を支援していきます」と花形調査役。

鈴木副調査役も、「本プロジェクトによって、モザンビークから日本への高品位な原料炭の輸量増加が見込まれますので、日本の鉱物資源の安定確保に繋がる意義ある案件を担当することができたと感じています。また、JBICはこれまでもVale S.A.が関連する複数のプロジェクトへの融資実績がありますが、本件を通じてより強固な連携関係が構築できたと感じています。今後も日本の公的機関として、Vale S.A.を含む重要なパートナーとの緊密な協力関係を通じて、日本企業による鉱物資源の確保や取得を金融面から支援したいと思っております」と語っています。